1-2　私立大学教員の授業改善白書の作成・公表

＜事業計画＞

本協会加盟の大学・短期大学の全専任教員（約６万５千人）を対象に実施した授業改善調査の結果を整理・分析し、教育改善に対する取組みの実態・方向性及び課題を「私立大学教員による授業改善白書」としてとりまとめ、公表し、大学、文部科学省、関係団体等に施策への反映を呼びかける。

＜事業の実施状況＞

授業改善白書の作成は、平成２２年度に実施した私立大学教員の授業改善調査の結果を分析するため、昨年度に続き「基本調査委員会」にて対応している。以下に委員会での活動を報告する。

基本調査委員会

平成２３年５月１８日に５名が出席し、昨年度に続き調査結果を分析し、白書のとりまとめを行った。

（１）授業改善白書のとりまとめ

大学に教育改革への取り組みを促進するため、加盟校の専任教員が認識している教育現場での問題認識、教員自身による授業改善への課題認識、大学として取り組むべき課題、授業でのＩＣＴ使用の効果と問題、参考となる教育事例の紹介を含めて「平成２２年度私立大学教員の授業改善白書」をとりまとめた。

加盟校の回答状況は、全専任教員の３割、２万５００名が回答し、大学教員の８割が授業にＩＣＴを使用している。短期大学教員は７割が使用しており、大学、短期大学とも３年前に比べ２割増加した。委員会では、５月の総会に報告するとともに加盟大学、文部科学省、関連機関、マスコミ各社に公表した。以下に白書の概要を報告する。なお、詳細は、巻末のⅢ．事業報告の附属明細書【２－６】を参照されたい。

平成２２年度私立大学教員の授業改善白書の要点

１．授業で直面している問題

基礎学力の低下、学習意欲の低下に加え、自発性の不足を指摘しており、「授業に対する教員の思い入れ」と「学生の授業への参加意識」にギャップが生じている。要因の一つとして、授業での動機付けが機能していないことが考えられる。

２．教員自身の問題

動機付け・学習意欲を高める工夫や予習・復習の習慣付けが難しい。成績評価が１回の筆記試験によることが多いため、知識詰め込み型の暗記学習を誘発。知識の獲得よりも、試験対策に終始してしまうことが一つの要因ではないか。多面的な評価、卒業試験など質保証のための仕組みが大学として求められてきている。

３．授業改善に向けた教員の努力・対策

学習意欲を高める授業設計・授業運営の工夫、授業中に学生の反応をとらえ、理解度に応じた授業を展開、対話を重視した授業の徹底などがあげられている。学習意欲の工夫の例として、グループ学習やコラボレーション学習、プロジェクト学習などの時間を増す。学びの成果を社会に発信し、社会からの意見・反応から振り返り学習ができるような仕組みの導入が考えられる。理解度の把握には、携帯端末を用いて学生の関心・興味や小テストによる理解の度合いを掲示しながら進める方法

がある。

4．大学全体として取り組むべき課題

学生の自立を促す教育指導の強化のために、教育・学習支援体制の整備、人材育成に対する大学全体の意識改革が課題としている。なお、出口管理として質保証に対する大学全体の厳格さが指摘されている。

5．組織的な教育指導能力の開発（ＦＤ）の実効を高める課題

教員自身による教育力の自己点検による指導方法等の省察が重要視されている。教員同士によるＦＤから、学生、職員、卒業生を含めたオープンなＦＤへの転換と企業現場での実務体験などを研修する学外ＦＤが必要とされてきている。

6．一大学で解決できない課題

高大連携による基礎学力の充実が最大の課題としている。入学後に高校課程の学力水準を補完するだけでは問題解決にならないことから、大学と高校の教育内容のマッチング、ネットによる出前授業が必要としている。

7．授業でのＩＣＴの使用実態

教材の作成、学習管理システムによる学習方法、課題の提示、レポート提出など、教育情報の伝達に使用しており、学習意欲を高めるような授業設計・授業運営の工夫を図るためにＩＣＴを使用していることがうかがえる。反面、授業中に学生の反応をとらえ、理解度に応じた授業への対応として、授業中に携帯電話やＩＣＴを用いて理解度の把握に使用しているのは１割に留まっていることが判明。利用技術普及の問題や支援体制などに課題があり、使用が進んでいないことが浮き彫りになった。

8．２年先の授業での使用

事前・事後学習、学習成果が社会でどのように活用されているかを可視化する映像の紹介、授業中の理解度把握と授業評価の改善への取り組みのフィードバックが増加している。新しい取り組みとしては、電子掲示板を用いたグループ学習、ネットワークを活用した産学連携、大学間連携などがあげられている。

9．ＩＣＴの教育効果

現実感覚を取り入れ授業に刺激を与え、授業への参加意欲と動機付けの向上としている反面、成績の向上には反映されていない。本質的な学びを導き出すための授業デザインや授業マネージメントが普及していないことがうかがえる。

10．ＩＣＴの問題点

ノートをとらない、理解しているようで理解していない、レポート等にコピー・ペースト行為が蔓延して学びが身に付かない、授業中に別なことをしており、授業に集中していない。改善策としては、ＩＣＴに全てを依存する授業ではなく、板書、対話を含む授業設計の工夫が重要。手書きメモの義務付けや、小テストなどにより学びの点検を行い、学習ワークを導入する必要があるとしている。

（２）白書の公表と大学、文部科学省、報道機関への働きかけ

７月２６日に文部科学省にて報道関係者に手渡すとともに、高等教育企画調査室に報告・説明した。また、８月３日の「教育改革FD/ICT理事長・学長等会議」に報告した。９月１日にＮＨＫより取材申し入れがあり、１０月２７日朝の「おはよう日本」でニュース報道された。